

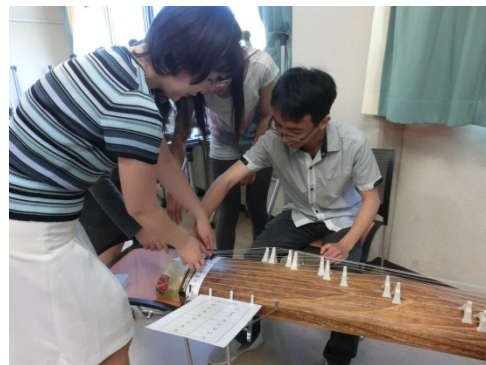
「日本文化入門」の授業で留学生が尺八と箏を体験

6月1日、尺八と箏の音楽デュオ「ゆるりら」さんのご協力をいただき、尺八と箏の演奏をお聞かせいただいた後、直接、楽器に触れさせていただきました。「ゆるりら」さんは、音楽ボランティアとして、日本の伝統楽器である尺八と箏の魅力を伝える活動をされていて、今回、初めて和歌山大学の留学生のために、お越しいただきました。演奏は、「春の海」、「まりと殿様」、そして某テレビ番組のエンディングに使われている「エトピリカ」。「エトピリカ」は口ばしが橙色の鳥で、アイヌ語では「美しい口ばし」を意味するそうです。すばらしい音色に留学生たちはすっかり魅せられていました。



楽器の説明に続き、実際に楽器を触らせていただきました。きょうのために、「ゆるりら」さんは、箏を5面、尺八は殺菌・密封されたものを人数以上にたくさん持ってきてくださいました。尺八はなかなか音が出なくて、皆さん苦労していましたが、お箏ははじくと音が出るので、うれしそうでした。

先生方には、「尺八を長く吹き続けるにはどうしたらよいか」「演奏の途中で箏を変えたのはなぜですか?」「箏をひくための爪は何からできていますか?」「箏と琴はどう違うのか」など、様々な質問が出ました。先生方は一つ一つ丁寧に答えてくださり、また尺八と箏の技の解説もしてくださいました。留学生たちが、感想や感謝の言葉をお伝えすると先生方のほうが感涙! その涙から、「日本文化を伝えたい」という思いの強さが感じられました。





貴重な体験をさせていただきました上に、留学生たちに歌川広重の額絵などの素敵なおみやげまでご用意いただきました「ゆるりら」の皆様、どうもありがとうございました。

「ゆるりら」さんのホームページ「花音綴り」にも、早速、当日の様子をご紹介いただきました。

2015年6月3日
国際教育研究センター